



語り手の一家はふだんはパリで暮らしていますが、休暇になると、父親の故郷であるコンブレー（小説中の架空の町）のレオニ叔母の家に行きます（ただし、レオニの名前が出るのはマドレーヌの挿話以降です）。そこに集うのは家の持ち主である大叔母、語り手の祖父母、祖母の二人の妹、祖父と仲の良いスワンなどで、女中のフランソワーズをはじめとする使用人たちもそれぞれ大きな役割を担うことになります。以下、コンブレーの回想が続きます。母親はサロン代わりに使われているガーデンルームや庭先で、集まった親族と話し込んでいます。母親は語り手を甘やかしてはいけな
いと思っているので、なかなか語り手の思うようには一緒にいてくれません。

Ma seule consolation, quand je montais me coucher, était que maman viendrait m'embrasser quand je serais dans mon lit. Mais ce bonsoir durait si¹⁾ peu de temps, elle redescendait si vite, que le moment²⁾ où je l'entendais³⁾ monter, puis où passait dans le couloir à double porte⁴⁾ le bruit léger de sa robe de jardin en mousseline bleue, à laquelle⁵⁾ pendaient de petits cordons de paille tressée, était pour moi un moment douloureux. Il annonçait celui⁶⁾ qui allait le suivre, où elle m'aurait quitté, où elle serait redescendue. De sorte que ce bonsoir que j'aimais tant, j'en arrivais à⁷⁾ souhaiter qu'il vînt le plus tard possible, à ce que se prolongeât le temps de répit où maman n'était pas encore venue.

訳 寝る時間になって二階に上がってゆくとき、私の唯一の慰めとなったのは、ベッドにもぐり込んだころにお母さんがキスをしに来てくれることだった。とはいえ、このおやすみはほんの一瞬で終わって、母はそそくさと階下に戻ってしまうので、階段を上

ってくる音が聞こえ、薬で編んだ小さな結び紐が垂れた青いモスリンのガーデンドレスの軽い衣ずれの音が、両開きのドアがある廊下を伝わってくるころになると、私は苦痛を味わうことになった。それはそのあとに続く時間、つまり、母が私のもとを離れてふたたび一階に降りてゆくのを予告していたからで、ついには私はかくも大切なこのおやすみが、なるべく遅くなること、お母さんがまだ来なくてただ待っている時間がこのまま続いてくれることを強く願うに至ったのである。

注 1) 次の行の si と同じで、3行目の que につながる。si... que の構文。2) 主語として2行あとの était にかかる。この名詞を修飾している関係代名詞が同じ行の2つの où である。3) l' = la = maman. entendre のような知覚動詞のあとの動詞は不定法。4) 英語の double door と同じく、両開きのドア。5) laquelle の先行詞は sa robe。6) 単純に書き直せば、le moment qui allait suivre ce moment。2つの où が関係代名詞として celui = le moment にかかる。7) en arriver à 「ついに～するに至る」。

しかし、客がいる晩は語り手はもっとつらい時間を過ごすことになります。

Mais ces soirs-là, où maman en somme⁸⁾ restait si peu de temps dans ma chambre, étaient doux encore en comparaison de ceux⁹⁾ où il y avait du monde¹⁰⁾ à dîner et où, à cause de cela, elle ne montait pas me dire bonsoir. Le monde se bornait habituellement à M. Swann, qui, en dehors de¹¹⁾ quelques étrangers de passage, était à peu près la seule personne qui vînt¹²⁾ chez nous à Combray, quelquefois pour dîner en voisin¹³⁾ (plus rarement depuis qu'il avait fait ce mauvais mariage, parce que mes parents ne voulaient pas recevoir sa femme), quelquefois après le dîner, à l'improviste¹⁴⁾.

訳 さりながら、お母さんが結局はほんの僅かの時間しか私の部屋にいないそんな晩も、晩餐客がいる夜に比べればずっと甘美だった。客がいれば、母はおやすみを言いに二階に来てはくれなかったからである。客はふつうはスワン氏に限られていた。通りすがりに立ち寄るさして馴染みのない人たちを別にすれば、彼はコンブレーの私たちの家を訪れるほとんど唯一の人間で、肩肘張らない夕食をしにやってくることもあれば（あの評判の悪い結婚をしてからは、私の両親が彼の妻に会いたがらないという理由で間遠にはなったけれど）、夕食後にふらりと訪ねてくることもあった。

注 8) en somme = somme toute 「結局。要するに」。9) ceux = les soirs。2つの関係代名詞 où を従える。10) 3行目の le monde も同じで「客」を表す。11) en dehors de 「～以外

に」。12) la seule に導かれる節ゆえの接続法半過去（不定法は venir）。13) en voisin は「近所同士がそうであるように、気取らず、お互いに」何かをなすさまを表す。TLFi (*Le Trésor de la langue française informatisé*) では Familièrement, sans cérémonie と説明されている。14) D'une manière imprévue, inattendue, au moment où on s'y attend le moins. (*le Grand Robert*)

スワンが客として訪ねてきたある晩、母親にどうしても寝室にきてほしいと思った語り手は悲壮な決意をします。緊迫した文体を味わって頂ければと思います。

Quand¹⁵⁾ j'irais¹⁶⁾ me mettre sur le chemin de ma mère au moment où elle monterait se coucher, et qu'elle verrait que j'étais resté levé pour lui redire bonsoir dans le couloir, on ne me laisserait plus rester à la maison, on me mettrait au collège¹⁷⁾ le lendemain, c'était certain. Eh bien !¹⁸⁾ dussé-je¹⁹⁾ me jeter par la fenêtre cinq minutes après, j'aimais encore mieux cela. Ce que je voulais maintenant c'était maman, c'était lui dire bonsoir, j'étais allé trop loin dans la voie qui menait à la réalisation de ce désir pour pouvoir rebrousser chemin²⁰⁾.

訳 寝るために母が二階に上がってくる頃合いを見計らってその行く手に立ちはだかり、廊下でもう一度おやすみを言う。そのために寝ずに起きていたことがわかれば、もう私は家においてもらえず、明日にでも寄宿学校へ入れられてしまうことは確実だった。それならそれでいい。たとえ、五分後に窓から身を投げなくてはならないとしても、そのほうがましだった。いま私が欲しているのはお母さんであり、お母さんにおやすみを言うことだ。その願いを実現するためにはるか遠くまでできてしまった。いまさら引き返すことはできない。

注 15) 「条件」を表す用法。16) 自由間接話法で、過去未来を表す。冒頭に、Je me disais : などを付けて考えるとわかりやすい。以下、文中の条件法も同様。17) mettre qn au collège 「寄宿舎のある初等・中等教育の、主として私立の学校に入れる」。18) 「驚き」「諦め」「不満」「決意」などを表す。内容を汲んで訳す必要がある。ここは「決意」と捉えて訳した。19) devoir の接続法半過去で「譲歩」を表す。20) rebrousser chemin で「後戻りする」。

寝ずに自分を待っていた子ども＝語り手の姿に驚き呆れながらも、母親は父親に語り手が叱られないようにと氣遣って「さあ、急いで逃げて」と言います。

Mais je lui répétais : «Viens me dire bonsoir», terrifié en voyant que le reflet de

la bougie de mon père s'élevait déjà sur le mur, mais aussi usant de²¹⁾ son approche comme d'un moyen de chantage²²⁾ et espérant que maman, pour éviter que²³⁾ mon père me trouvât²⁴⁾ encore là si elle continuait à refuser, allait me dire : « Rentre dans ta chambre, je vais venir. » Il était trop tard, mon père était devant nous. Sans le vouloir, je murmurai ces mots que personne n'entendit: « Je suis perdu ! »

訳 父の蠟燭の光がもう壁づたいに上がってくるのを見て震え上がりながらも、父が近づいてくるのをまるでゆすりの手段のように使おうとして、私は何度も繰り返した。「おやすみを言いに来て」。もしそれを拒み続けたとしたら、私がまだそこにいるのを父に見つかってしまう。そう考えたお母さんが「部屋に戻りなさい。あとで行くから」と言ってくれるのを私は期待していたのである。だが、もう遅かった。父が私たちの前に立っていた。思わず、私は誰にも聞こえぬ声で、つぶやいた。「もうおしまいだ」

注 21) user de 「～を使う」。前行の terrifié, l'行あとの espérant と同じく、状況補語として主語を修飾する。22) 「脅し、ゆすり」。23) éviter que のあとは接続法。24) trouver の接続法半過去。「過去における未来」を表す。

親族の言葉

フランス語では血縁関係を表す言葉が曖昧なところがあります。コンブレーで語り手たちはレオニ叔母 tante Léonie の家に滞在しています。しかし、レオニ叔母は、語り手からすると、母方の祖母の夫のアメデの従姉妹の娘です。日本語では「叔母」とは言いません。それに、そのレオニの母親は「大叔母」grand-tante と呼ばれ、しかも、ときどき「叔母」と言われたりするのです。「伯叔」の違いもありませんから、翻訳によって異なるのも致し方ないところです。また、スワンは voisin という関係ですが、両隣やすぐ近所に住んでいるわけではありません。TLFi に言う、Personne ou chose qui se trouve à proximité と Avec qui on a des affinités intellectuelles ou affectives の語義を重ねて考えたほうがいいかもしれません。

maman という言葉の訳には苦労しました。Robert 仏語大辞典では、Terme affectueux par lequel les enfants, même devenus adultes, désignent leur mère, et dont se servent familièrement les personnes qui leur parlent d'elle と書かれています。「ママ」「ママン」としている翻訳もありますが、日本語としてまだ熟していないと考え、戦前の訳がそうであったように結局は「お母さん」としました。

※原文は Du côté de chez Swann, *À la recherche du temps perdu*, Pléiade 版から引用。

※訳文は拙訳『失われた時を求めて 第一篇 スワン家の方へⅠ』(光文社古典新訳文庫)を使用。
(たかとお・ひろみ)